

令和元年 第3回定例議会だより

一般質問 Q&A

災害時の妊産婦及び乳幼児に対する支援について

妊産婦及び乳幼児にとって避難時の冷えや暑さ、不衛生な状態は大変な危険にさらされる要因となる。避難所環境、医療物資、栄養、生活等の妊産婦及び乳幼児への総合的支援の充実が必要と考える。

Q 妊産婦及び乳幼児への避難所環境への配慮、備蓄品等の支援の現状は。

A 市長

国の「福祉避難所の確保・運営ガイドライン」に基づき、避難所の適切な開設・運営が行えるよう関係機関と必要な対策を進める。備蓄は、学校等の避難所には紙おむつ、哺乳瓶、乳首等が、ひまわり、ゆとりの森、やすらぎ会館には、これらに加え粉ミルクも備蓄している。

Q 乳児用液体ミルクが今年3月より大手企業2社より販売が開始された。この液体ミルクを避難所や保育園などでの備蓄や、災害時に調達できるような体制が必要。使い捨て哺乳瓶とあわせて備蓄はできないか。

A 市長

調達の体制については流通備蓄を活用することとし、新たな協定締結先を現在調整中である。



肺がん検診の受診率向上に向けた取り組みについて

2017年にがんで死亡した人は37万3,334人に上り、そのうち死亡者数及び死亡率の一番多い部位は肺との報告がなされ、男性が1位、女性が2位となっている。

肺がん検診の受診率を高め、早期発見・早期治療を促進することは、海津市民の健康維持のためには非常に重要。

市民を肺がんから守るため、肺がん検診の受診率向上に向けた積極的な取り組みを。

Q がんの罹患者及び死亡者数は。

A 市長

平成27年のがんの罹患者数313件で1位が肺がんで51件、がんの死亡者数は128人で1位が肺で29人。

Q 国保加入者の肺がん検診率は。

A 市長

受診率は13.3%。



Q 個別の受診勧奨はしているか。

A 市長

1つ目に、過去3年間、市の肺がん検診を受診されたことがある人に個別案内を送付。2つ目に、65歳の人に検診車による肺がん・結核検診の個別案内を送付。3つ目に、65歳以上の人で病院などほかで検診を受けている人を除き、全員に検診車による肺がん・結核検診の個別案内を送付。4つ目には、60歳、65歳の国保加入者で未受診者に対し、個別訪問による受診勧奨を実施している。

Q 特定健診と肺がん検診の同時受診は可能か。

A 市長

市医師会病院で実施する人間ドックを受診する方は、同時に受診することができる。

肺がん・結核検診の周知につきましては、今後も、個人案内や市報、ホームページ及びチラシの配布等により検診受診率のさらなる向上に努めていく。

女性の視点で政策を わりやすく訴え続けています!

元気いっぱい
各地へ遊説



公明党法律相談のお知らせ

アスティ大垣 10月は 11/26、12/24
PM6:00 火曜日 中止

10/15、11/5・19、12/3・17

ハートフルスクエアG 2F(小会議室) PM6:00 火曜日

ご相談されたい方は

要予約

「浅井まゆみ」までお電話ください

TEL・FAX 0584-56-2525